

特集 **世界YWCA総会報告**

6面 「ひろしまを考える旅」報告

7面 YWCA-YMCA合同祈禱週

第27回

世界YWCA 総会

女性が創りだす安全な世界

世界125カ国に広がりを持つYWCAの4年に1度の総会が、7月11日～16日にスイスのチューリッヒで開催され、全世界から1000人を超える女性たちが出席しました。



The Young Women's
Christian Association

YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題

平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・女性と子どもの権利をまもり
 - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
- (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

10

OCTOBER
2011

No.704

www.ywca.or.jp

Women Creating a Safe World

World YWCA Zurich
2011

WOMEN CREATING
A SAFE WORLD
World YWCA | Zurich 2011

Special Issue

特集



世界の友の支え

世界の女性たちが一堂に会する世界YWCA総会は、迫力に満ちている。会長や会計役員・運営委員が選挙で決まると、その都度大きな歓声があがり、音楽が流れ、踊り出す。選挙で選ばれることの喜びを皆で祝う。YWCAで活動することの喜びを世界のメンバーは心から喜んでいいる。

今回の総会で、特に強調されたのは、若い女性のリーダーシップのみならず、「世代間のリーダーシップ」である。次世代へのYWCAの運動の継承を若い人たちがだけで行うのではなく、あらゆる世代が良い関係を築きつつ、共にY

WCAの運営を担っていくことの重要性を確認した。

日本YWCAから出席したメンバー18名は、東日本大震災直後の日本からの参加でもあったので、「福島」の痛みと脱原発の声を、世界に届けなくてはという使命感を帯びていた。ブースでも、ワークショップでも、出席者それぞれが、メッセージ入りうちわや用意した資料を渡し、日本の現状や核の恐ろしさなどを伝えた。

最後の議事の際に、「福島」の女性たちが置かれている悲しみを訴えるため、特別にアピールする時間を設けていただいた。東日本大震災被災者支援のお礼と共に、地球規模の脱原発のアピールをした。会場は、スタンディングオベーションとなり、大きな励ましと賛同の拍手をいただき、感動であった。

私たちは、確かに世界に繋がっている。チェルノブイリ原発事故を経験したウクライナやベラルーシのYWCAからも励ましをいただいた。いつも痛みを覚えているパレスチナのYWCAも、パキスタンやインドなど核を保有しているといわれている国のYWCAも、世界の友が私たちを支えてくださっている。国際NGOであるYWCAの存在意義を深く実感した総会であった。

日本YWCA会長 俣野尚子

Women



日本YWCAからの出席者

No Women, No Peace 世界YWCA総会 報告

[2011年7月11日～16日]



会場入口には世界YWCA総会のフラッグ。

世界YWCA総会では、全世界のYWCAとして推進する共通の課題について話し合い、決定するほか、次の総会までの4年間の予算やプログラムの計画を立てます。国や地域の数だけ異なる課題がありますが、それらすべては女性たちがリーダーシップを発揮し、女性たち自身の人権や生活の状況を改善するという共通の目的で繋がっています。

国際女性サミット(IWS) 世界の女性と共に

世界YWCA総会では、本会議のほか、

国際女性サミット(以下、IWS)という公開イベントが開催されます。世界中で見られる女性に関わる諸問題を、一国一地域の課題としてではなく世界の女性の課題として受け止め、具体的な解決策や解決に向けた実践を共有しました。世界YWCAはこの会議で導き出された課題をスイス政府代表および国際機関へ提出し、国連ミレニアム開発目標の期限である2015年以降のアジェンダに取り入れるよう、国連に働きかけていきます。

今回のテーマは、「女性が創りだす安全な世界」ですが、一般的に「安全」の解釈は多岐にわたるものです。スーズン・ブレ

ナン世界YWCA会長はIWS開会の言葉の中で、女性にとって安心・安全な場所とは、国や行政が言う女性を安全網に閉じ込めるようないわゆる安全保障ではなく、女性たちが自らが私的な安全を確保できることであると明言しました。また、女性に関する課題に包括的に取り組む国連機関として2010年に発足した、UNウィメンのミシェル・バチエレ初代最高責任者も開会に駆けつけ、世界中から集まった約1000人の女性たちの前で語りました。

IWSは、4つのテーマ(①女性が創りだす安全な世界 ②女性の性と生殖の権利を確実にする ③女性に対する暴力を撲滅し、正義を実現する ④女性と少女にとっての安全・安心な場所を要求する)



ごとに、パネル形式の全体会と参加型の分科会とがセットで企画されており、参加者は全体会で概要をつかんだ後、分科会で自分の経験やアイデアを積極的に共有することができました。テーマ③の全体会では、セネガルのNGO「アフリカ女性の連帯」代表者から、子ども時代に体験したシエラレオネ内戦の暴力的状況が共有されました。テーマ④の分科会の一つでは、クリスチャンとムスリムの相互理解と共存を目指して、スイスのキリスト教とイスラム教グループが協働で実施しているプログラムが紹介されました。

2日間のIWSを通して明らかなのは、国際レベル・政府レベルでのさまざまな決定事項や目標を言葉の上で終わらせず、確実に各国政府が努力するようになるにはどうしたらよいか参加者が積極的に考える場であったこと、また、市民レベルでの実践の成功例を共有する場であったことでした。

本会議 2012年—2015年の ビジョンを描く

世界YWCA総会の後半は3日間にわたる本会議です。本会議では、1総会期4年間の組織計画や予算を決め、会則改正案について協議・決議し、世界レベルでYWCAを牽引する会長以下運営委員といたった組織のリーダーたちを選挙により選出します。YWCAは地域的な公平さを確



ブレ総会として「若い女性のリーダーシップダイアログ」と「運動構築とリーダーシップのブレ総会」が開催されました。



シャガール作のステンドグラスで有名な、フラウミュンスター大聖堂。「女性の教会」とも呼ばれ、世界YWCA総会を始めるにふさわしい場で、アーチ型の高い天井に響き渡る力強いパイプオルガンの響きに活力を得て、第27回世界YWCA総会が開幕。



人権分野で多大な影響と実績を持つメアリー・ロビンソンの名を冠して、若い女性の人権を促進する働きを讃えるメアリーロビンソン賞が、国連人権委員会とアフリカ女性開発基金のサポートを得て設置されました。ザンビアYWCAとケニアYWCAの若い会員、そしてベリーズYWCAが、HIVおよびAIDSと貧困や教育の問題への取り組みで初代メアリーロビンソン賞を獲得。カナダYWCAは女性のリーダーシップ促進の分野で受賞しました。



ホスト国のスイスYWCAが参加者をもてなす「スイスナイト」を開催。スイス紹介の1コマでは、「スイスは原子力発電に反対します」と打ち出していたのが頼もしく、日本からの参加者の心の中に希望をもたらしました。入口でアルペンホルンのパフォーマンス

保するため、全世界をアフリカ、ヨーロッパ、アジア、ラテンアメリカ、北アメリカ、太平洋、中東、カリブ海の8つの地域に分け、各地域から候補者を立てます。選挙の結果、新会長はカリブ海地域選出のデボラ・トーマス(トリニダード・トバゴYWCA会員、2008)と2011年世界YWCA副



会長(写真右)が、新会計役員には北アメリカ地域選出のキャロライン・フラウズ(アメリカYWCA会員、2008)と2011年世界YWCA運営委員(写真左)が選ばれ、6名の新副会長には、この4年間世界YWCA会長を務めたナンシー・ブレナン(太平洋地域選出、オーストラリアYWCA会員)、同じくこの4年間副会長を務めたジェシカ・ソットウエル(北アメリカ地域選出、カナダYWCA会員)を筆頭に、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、カリブ海地域から4名の20代のメンバーが選出されました。

4つのYWCAが新たに正式加盟

本会議では、ハイチとアメリカ領バージン諸島の2つのYWCAの新規加盟と、準加盟だったベリーズとルワンダYWCAの

正式加盟が全会一致で承認されました。

また、2012年から2015年まで向こう4年間の組織計画のほか、国連ミレニアム開発目標達成の期限である2015年以降2035年までの20年間のYWCAの将来像や目的についても、全体会と小さなグループでの分科会で話し合い、参加者の意見を吸い上げ、計画に盛りこんでいく作業をしました。その結果、世代間の女性のリーダーシップ・女性の人権・運動の構築と適切な組織管理の3つの切り口で、YWCAのさまざまな活動を展開していくことが決まりました。

このほか、韓国YWCAと日本YWCAが共同で提出した、北朝鮮の女性と子どもの人権について訴えた決議案も採択され、北朝鮮の女性と子どもたちの貧困からの救

済と、北朝鮮を脱して難民となった人々の人道支援に、世界のYWCAで取り組むことが決まりました。

本会議では地域別の会議も開催され、8つの地域区分の中で最も多様性に富むアジア地域はエネルギーに満ち、政治レベルではさまざまな葛藤がある中でそれを市民レベルで克服して進んで行く前向きな連帯感が感じられました。21世紀はアジアの時代だと言われます。次の世界YWCA総会は、2015年タイで開催されます。

日本YWCA職員 根岸朋子

*1〜4面掲載写真

世界YWCA / 日本YWCAより

日本YWCAから 世界YWCAへ

世界YWCAから 日本YWCAへ



ワークショップには書道や折り紙の時間もあり、会場は始終脱原発への理解とともに暖かな笑みにあふれた。最後には日本YWCAの非核についてのアピールを読み上げた。

年代も経験も立場も異なる総勢18名からなる「チーム・日本Y」が、世界の仲間と交流しつつも、あちこちで懸命に「非核」を訴えた熱い1週間を過ごしてきました。昨年、韓国YWCAから「平和を求め、朝鮮民主主義人民共和国の女性と子どもの人権を強化する」決議案を日韓共同で世界YWCA総会へ提出しようと呼びかけがありました。これはこれまでの日韓YWCA間の地道な信頼関係構築の結果だと言えます。日本YWCAは、決議案の中に東北アジアの平和構築への想いも託して、初めての日韓共同決議案を提出、世界YWCA総会最終日に議論の末、採択されました。

さらに今回私たちは、「非核」を世界へ働きかけるといふ大きな目標もありました。日本YWCAは、核兵器だけではなく「核の平和利用」だと言われる原発に対しても長い間反対してきました。しかし、3・11によって生じた東京電力福島第一原発事故により、恐れていたことが現実のものとなりました。5月の加盟YWCA中央委員会でも、改めて「非核」を世界YWCA総会場でアピールする必要性が議論されたことはご記憶の方もいらっしゃると思います。実は、1963年の世界YWCA総会で関屋綾子さん等代議員がすでに、核兵器のみならず「原子力の平和利用」に疑義を表明しています。その時には、世界YWCA総会の中で理解を得ることは出来ませんでした。



今回「非核」について多くのYWCAと話すことが出来た結果、韓国はもちろん、特にウクライナやインド、イギリスから強いサポートを得ることや、「非核」について今後の情報共有や協働プログラムの可能性も話し合うことが出来ました。今回の「非核」の勧告を目指す中で、突然の提出のため世界YWCAとの交渉や賛同YWCAを増やすために会場を駆け巡ることになりました。約5日間、多くのナショナルYWCAの総幹事や会長に説明する過程で、より深い理解を得ることができたと思います。最終的には全体会でアピールするという形になりましたが、最終日に日本YWCAのアピールの際には、会場から大きな声援と拍手が湧きました。

ことを考えました。そのため、現地での話し合いの結果、勧告提案提出を模索することで意見がまとまりました。ワークショップの内容も見直しを行い、より「非核」のアピールに焦点を絞った内容に変更しました。皆の呼びかけの結果、オブザーバーが中心になり準備したワークショップには、約50人も参加があり、非核についての理解も得られました。

同時に、「非核」の勧告を目指す中で、突然の提出のため世界YWCAとの交渉や賛同YWCAを増やすために会場を駆け巡ることになりました。約5日間、多くのナショナルYWCAの総幹事や会長に説明する過程で、より深い理解を得ることができたと思います。最終的には全体会でアピールするという形になりましたが、最終日に日本YWCAのアピールの際には、会場から大きな声援と拍手が湧きました。



日本YWCA副会長 吉村千恵

感想と抱負

若い世代とシニア世代の橋渡しに

今回初めて世界YWCA総会に参加し、世界中から集まった女性たちにエンパワーされ、多くの学びと気づきがあった。

YWCAが若い世代の活動やリーダーシップを非常に重要視していることをさまざまな議論を通じて再認識した。私のような中間年代層の立場は、次の若い世代にとって気軽に頼れる身近な存在になると同時に、今後若い世代とシニア世代への橋渡しや調整を行うことが一つの課題になると感じた。次世代育成や世代間の相互理解については各々の世代が意識する必要があると思う。

世界総会は言語もさまざまな100以上の国や地域が参加する国際会議であり、コミュニケーションの多くは英語で行われる。非英語圏への配慮という観点は常に意識すべきであるが、同時に、日本の立場や考えを表明し世界へもつと発信するために、英語で発表・議論する能力を向上させることは大切だと改めて感じた。

普段は東京YWCAのメンバーとして活動しているが、本総会をきっかけとして、世界YWCAの活動に触れることができた。この経験を生かして今後はより一層世界を見据えた活動を展開していきたい。

東京YWCA 長尾真知子

障害者のバリアフリーについてもアピールしていきたい

スイスで開催された世界YWCA総会に参加できたことは、自分にとって非常に貴重な経験となりました。札幌YWCAの代表の一人として、また聴覚障害者の一人として、世界の舞台を経験できたことは大きな喜びであり、誇りでもあります。新たな友人を得ることもできました。

総会のプログラムはすべて英語で進められます。慣れない英語では、普段の生活と同じように相手の口の形を読み取りながらコミュニケーションを取るのには困難です。スイスYWCAスタッフのマニエラさんは私のためにノートテイクを引き受けてくださり、会議の内容をていねいに書き起こして理解を助けてくれました。日本YWCAの皆さんにも通訳をしていただき、大変ありがたかったです。

今回で27回目となる世界総会に難聴の者が参加するのは初めてということとです。今後は私のような参加者を念頭に、パソコンとプロジェクトや通訳の充実を要望しました。4年後の世界総会はタイで開催されます。私は語学を磨いて、国際手話も使いながら、より積極的にコミュニケーションを図っていききたい。女性の人権問題だけでなく、障害者のバリアフリーについてもアピールしたいと考えています。

札幌YWCA 和田晶子

世界の若いメンバーたちとのネットワークを活かしたい!

今回、世界YWCA総会に出席できたことは、私にとって非常に大きな経験となった。まず何より大きなことは、私たちが日本で行っているYWCAの活動が、アジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、アフリカ、カリブなど、世界中の国々のYWCAのメンバー、特に若い女性たちとつながっていることと実感することができたことである。普段行っている活動や課題をお互いに分かち合い、どのような思いを持っているかを共有することができ、これからのそれぞれの活動をより良いものとし、多くの人たちへつなげていく機会とすることができた。さらに、私が普段あまり行っていない、「性と生殖に関する健康と権利」についての取り組みなどをほかの国々の参加者たちから知ることができ、これまであまり知らなかった活動についても考え、これからの日本での取り組みについて考えるよい機会となった。

この経験やネットワークを、次は日本のYWCAでの活動へ貢献し、生かしていけるよう、これからもYWCAでの活動を頑張っていきたいと思う。

日本YWCA運営委員・福岡YWCA 樋口さやか

目を引いたアジアのYWCA

関西地域から集まった世界YWCA総会参加者5人は関西空港を出発し、フランクフルト経由でチューリッヒに夕方頃到着した。空港では、良く準備されたスイスYWCAのボランティアに歓迎、案内された。チューリッヒでは、世代も背景も出身も違う私たちが、YWCAの仲間だというだけで共に食事を取り、分かち合い、心をひとつに作業をしたこと、共に過ごした9日間は、私にとって良い思い出と体験となった。

世界の自然災害に関して、多くのYWCAが口を揃えて、自国の災害時に日本YWCAから一番にお見舞いの手紙が届いたことを言っていた。日本が原発の問題をアピールした時も皆が協力的であった。日本YWCAのビジョンやモチベーションを再確認し、これからの日本YWCAが見えてきた。長い年月をかけて先輩たちが積み重ねて来た業績も実感できた。

YWCAは歴史的に欧米からアジアに渡って来た。しかし、時代の流れと共に現在はアジアの国々の運動が強化され、世界においても目を引きはじめ、リーダーシップを取りつつある。これからの日本YWCAはアジアの国々の変化と共にリーダーシップの役割を担う時がきたのである。

神戸YWCA モーア アン

ひろしまを考える旅2011

憶えておく 伝えていく —核のない、新しい世界に向かって



今年の「ひろしまを考える旅」は東日本大震災の後であり、特に福島原発事故が収束していない不安定な中で開催されました。被災地を含めた全国各地からの参加者、留学生、中国YWCAからのゲスト総勢49名の参加を得て、素晴らしい出会いと学びが生まれたことを感謝して報告いたします。

3・11以降の生き方を問い、ヒロシマ・ナガサキに学ぼうと集まった参加者は、「憶えておくプログラム」(平和資料館・フィールドワーク・被爆証言・碑めぐりなど)と「伝えていくプロ



被爆証言を伺った後、岡ヨシエさんを囲んで



福島からの参加者の「脱原発のデモにすぐ使えるものがほしい」との声に応じて、Tシャツのデザインを考えました。



広島女学院校内の碑めぐり

ラム」(広島に来て学んだことを誰かに伝えようと試みるワークショップ)に積極的に取り組んでいました。66年前の、あの日、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから」という広島メッセージを心に刻むと共に、今年の「あの日」3・11を憶えておくことになった私たちは、広島に来て考えたことを伝えていく使命を帯びました。被爆証言などは少人数でいいいに聴き、対話したいと願い、プログラム企画を精査した結果、見聞きたことを自らに引き寄せて考えるゆとりが与えられたようです。また、ユースの活躍と、ボランティアリーダーの自発的な働きは目覚ましいものがありました。

開会メッセージをいただいた西嶋佳弘牧師(日本キリスト教団広島牛田教会)や広島女学院中高YWCAほか

による碑めぐりの案内のほか、被爆証言、フィールドワーク、ホテル、広島YWCAなど広島現地での多くの方々のご理解とご協力に心から感謝いたします。

それぞれの地に帰った参加者たちは、培った友情と学びを大切にして、核のない、新しい世界に向かっての歩みを進めていることでしょう。

ひろしまを考える旅委員会委員長

横山由美子



中国YWCAからの参加者

種

あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。
しかし、必要なことはただ一つだけである。

(ルカによる福音書10章41〜42)

この聖句は、イエス様を自分の家に迎えたマルタが最高のもてなしをしようと忙しく立ち働いているのに、イエス様の足もとに座って、そのお話に聞き入っている妹のマリアに手伝うように言っしてほしいと、マルタが訴えたときのイエス様のお返事です。「マリアは良い方を選んだ」というイエス様の言葉を、忙しく動き回っている自分に言われているものとして、長年私は捉えていました。

しかし、このところ、忙しく動き回っていることを反省するよりも、「必要なことはただ一つ」という御言葉にもっと注意を払うべきではないかという思いが強くなってきました。すべての面で、自分はただ一つの必要なことに思いを集中しているだろうか？ということ判断の基準にすべきで、忙しい自分の姿だけから、マルタと同じ生き方をしているかと判断すべきではない、むしろ、何ものにも変えられないイエス様のみに従って生きているかを常に考えたいと思うに至ったのです。この思いに忠実に、祈りつつ歩み続けたいと思います。

江尻美穂子
東京YWCA会員

Week Without Violence 10月第3週は 非暴力 週間です

YWCAでは、
10月の第3週
を非暴力週間



(Week Without Violence)と定め、世界各地で女性に対する暴力根絶キャンペーンを展開しています。この運動は、1995年にアメリカのYWCAが、ドメスティック・バイオレンスやレイプ被害者の急増を背景に、女性に対する暴力に関する啓発活動を始めたのがきっかけとなり、世界各地に広まってきました。

人々がこの問題を身近なものとの認識し、問題に対応できる力をつけられるように、例えば、職場や学校にYWCAのメンバーが出かけセミナーを行ったり、暴力を乗り越えて立ち上がった女性たちの話を聴く機会を設けたり、夜に女性が恐怖感なく歩ける権利を求めて「夜を取り戻して!」というパレードを行ったり、虐待やレイプ・人身売買などの被害者を守る法整備を政府に求める活動などが、世界各地で行われています。

YWCA-YMCA 合同祈禱週

「影響を与える声」 若者は権利と正義を呼び求める

期間：2011年11月13日(日)～19日(土)

世界YWCAと世界YMCA同盟は、1904年以来、毎年11月の第2週目の日曜日を起点とする1週間を合同祈禱週とし、共に祈りを守ってきました。この1週間は、YWCA-YMCA運動がよりよい世界を実現するための基盤となる魂のビジョンを再確認するための1週間です。

YMCA・YWCA両会長のメッセージ

今年の合同祈禱週は、私たちが尊敬と責任とを持って、若者たちを神の国における協働者としてその榮譽を称えるよう招いています。人生を肯定し変化をもたらすような意見を、若者たちは持っています。

若者たちの声は同じように聞こえてくるわけではありません。その声は、私たちが活動するYMCA/YWCAの現場や、それぞれの向き合う現実や状況によって、異なった形であらわされ、また神によって与えられた一人ひとりの個性や賜物によっても、違うように表現されます。しかし、その声には共通の目的があります。それは、不正の重圧に抗う権利のためにはっきりと声をあげるということです。

私たちの声を、国々の法を改正するために使うか、バス停にいる見知らぬ人に慰めの言葉をかけることに使うか、というようなことは問題ではありません。重要なのは、自分の年齢や経験、学歴に関係なく、愛を語ることに躊躇しない勇敢さを手に入れること、そして困難な状況にある人たちに愛を差し出すということなのです。テモテへの手紙1の4章12節のみことばが、今年の聖句として選ばれています。「あなたは、年が若いということで、だれからも軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、行動、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となきなさい」。

何百万もの若者たちが、声が聞き入れられるため、また正義のために活動する手段として、私たちの運動を選んでくれているのはとてもうれしいことです。そして私たちは、若者たちの声を育てること、声が聞かれる場を提供すること、声を真剣に受け止めることに対して重大な責任が伴うことを心に留めています。

多くの若者たちが学校で、職場で、礼拝の場で、それぞれのコミュニティで、また社会全体の中で変化をもたらしています。変化をもたらすことには、すべての若者たちが招かれ、年を重ねたすべての人たちにも開かれています。私たちキリスト者の使命は、救い主であるイエス・キリストの遺して下さったものを基にして、まわりの人たちの人生に変化をもたらすことです。

今年は、異なる人に日ごとのメッセージを書きいただきました。ほとんどは若い人たちです。パレスチナの若い女性であるピザンは、彼女のメッセージを目が覚めるような挑戦で締めくくっています。「イエス・キリストは若者たちと、その可能性を信じましたが、私たちにはそれができているとは言えません。今、私たちの運動が、若者たちを信じているということ、どうやって示すことができるでしょうか?」

よく考え、議論し、そして共に祈ることによって、私たちはピザンの質問の答えを見つけることができるでしょうし、私たちの使命である正義のための働きを達成させるために、再び聖霊で満たされることでしょう。

世界YWCA会長

デボラ・トーマス＝オースティン

世界YMCA同盟会長

ケン・コロトン

(翻訳協力:長尾有起)



2011年度 中高YWCA夏のカンファレンス

中高YWCAの夏のカンファレンスは、毎年夏に全国3カ所で開催され、出会いと学びの機会となっています。今年は東日本大震災の影響で、関東地区・関西地区の2カ所の開催となりました。関東地区カンファレンスは、8月2日(火)～4日(木)山梨県清里にある清泉寮を会場に「呼びかける主イエスの言葉に応えよう」をテーマに実施、7校より47人が参加しました。関西地区は、8月1日(月)～3日(水)に名古屋の金城学院高等学校と東急インを会場に、「御言葉によって生きる～聖書を知った人生～」をテーマに、9校より119人が参加して行われました。

エンパワーするNGO



長崎高校生平和大使、世界YWCAを訪問

長崎高校生平和大使(以下、高校生平和大使)16人が8月19日に世界YWCAを訪問しました。高校生平和大使は、毎年ジュネーブの国連軍縮会議事務局を訪れ、長崎と広島で起きた悲劇と現在も続く原爆の被害を伝えるとともに、核廃絶を求める署名を提出しており、今年の高中生平和大使には東日本大震災の被災者も含まれています。

ニャラザイ・グンボンズバンド世界YWCA総幹事はYWCAを代表して高校生平和大使を歓迎し、「皆さんのおかげで、若い人たちも平和を求めて活動しているのだということをも再認識できます」とその活動を賞賛しました。「世界中の人々が英知を結集させて協力すれば、核のない世界という目標を達成することは可能です。真の平和への道を開くのは私たちです。だから、私は、核のない世界を求める訴えを決してやめません」。高校生平和大使の一人はこう語りました。

(世界YWCAホームページより抜粋)



北の大地ですごす夏休み
みどりの風に吹かれてみようよ

8月2日から11日まで、福島在住の親子9組20名を札幌に招待しました。放射能汚染や津波被害に遭い、心に深い傷を抱えている親子に、ゆっくりと日常の中で自分を取り戻してほしい、心と体のリフレッシュの機会を提供したいと考えたからです。約2か月間という短い準備期間ではありましたが、日本YWCA・北海道庁・札幌市からの助成金、教会からの募金、さらに、他団体と協働したことによってたくさんのご支援をいただき、実現できました。



暑い日が続いても、子どもたちは元気! 颯爽と馬にまたがり乗馬を体験し、「福島県はプール禁止だから…」と、屋外の巨大プールで思いっきり遊びました。期間中、ケガや事故もなく、親子ともどもゆっくりと休めたようで、プロジェクトは無事終了です。札幌YWCAは今後も被災者(特に子どもたちの)支援を続けていきたいと考えています。

札幌YWCA 吉田みどり



- 協力ありがとうございました
賛助費
青木基子 赤木弘子 阿部善久子
秋田 穂 秋元靖子 有賀三奈子
阿武 桂 阿部方子 五十嵐和子
荒井重人 荒川知子 五十嵐康子
池上幸子 石川紀子 伊藤いく代
磯井裕子 井田すみ 伊藤富美子
井出 都 今井美命 稲葉和寿子
岩崎妙子 若橋百合 上野花枝
上原睦子 梅本弘子 岩尾道子
梅本弘子 江尻礼子 松岡信子
江副富子 大塚シゲ 松岡信子
大野綾子 大村直子 小野寺富子
小川 碧 奥田直子 小野小夜子
片山 恵 叶 路子 朽木美奈子
鎌原恵子 神山妙子 小山内まり
鴨打美章 川嶋博子 近藤真由美
川西 薫 川村悦子 佐竹美美子
岸田晃子 北原恵美 嶋崎紀代子
清井よし 熊谷麻子 杉田佐紀子
黒木順子 小泉迪子 杉村みどり
小泉陽子 小谷充子 大工原則子
古西正子 小林俊子 高月三世子
五味優子 汐崎康子 谷山久美子
篠原洋子 篠山淳子 田中久美子
嶋田 紫 首藤和子 田村恵美子
庄子泰子 鈴木みき 田村三保子
須藤昭子 須藤和子 坪田未沙子
関口静子 仙波容子 富岡美知子
高橋栄子 田口美穂 富田美穂子
田崎桂子 田中宏子 永井千代子
田中倍子 谷口道子 長尾真理子
中西トク子

若い女性育成サポーター
赤木弘子 大野綾子 伊藤富美子
桐村直子 都木恵子 中西トク子
西野和子 早田紀子
(2011年8月20日現在 敬称略)
■東日本大震災被災者支援募金にご寄付いただきました皆さまのお名前は12月号に掲載する予定です。ご了承ください。

- 多文化共生サポーター(国際協力募金)
北村和子 小泉迪子 高橋栄子
西野和子 篠真紀子
(ハレスチナYWCA支援募金)
高月三世子 田村三保子
日本キリスト教協議会
(オリーブの木キャンペーン募金)
大野綾子 桑原貴子 田村三保子
小松陽子 田中京子 富岡美知子
中村秀雄 皆川悦子
(世界YWCA総会派遣募金)
東京YWCA国領センター春のつどい
ファンコイン募金&
全国メッセージキャンペーン)
東京YWCA
若い女性育成サポーター
赤木弘子 大野綾子 伊藤富美子
桐村直子 都木恵子 中西トク子
西野和子 早田紀子
(2011年8月20日現在 敬称略)
■東日本大震災被災者支援募金にご寄付いただきました皆さまのお名前は12月号に掲載する予定です。ご了承ください。